

Information 11



11月になりだんだん寒くなってきましたね。

今回は命にも関わる怖い病気 **<心臓病>** についてお話します。



~心臓について~

心臓は酸素や栄養などが含まれる血液を全身に運ぶ。

不要な二酸化炭素などが含まれた血液を肺に送るなど、

血液循環を担うポンプの役割がある。

人間の心臓と同じく、**右心房・右心室・左心房・左心室**の

4つの部屋に分かれている。

~血液の一連の流れ~

肺で酸素を受け取る⇒左心房⇒左心室⇒大動脈

⇒全身の組織で酸素を二酸化炭素と交換⇒大静脈⇒右心房⇒右心室⇒肺

~心臓病の症状~

- ・呼吸が苦しう、呼吸が速い
- ・運動を嫌がる
- ・ゲーゲーするような低い音の咳をする
- ・むくみ
- ・体重が減る
- ・お腹の周りが膨らむ
- ・咯血
- ・突然、元気がなくなる
- ・チアノーゼ
- ・失神する



~心臓病の食事管理~



- ・塩分が制限されたフードを与える
- ・ビタミンB群、タウリン、カルニチンを多く含むフードを与える



~主な代表的な心臓病~

- ・僧帽弁閉鎖不全症（犬で多くみられる）

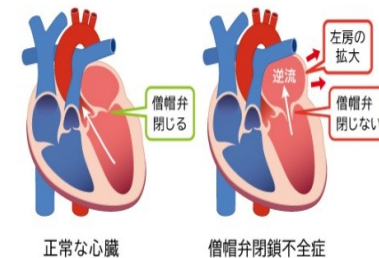
特に高齢の小型犬に多くみられ、雌よりも雄がなりやすい。

左心房と左心室の間にある僧帽弁の逆流防止弁に障害が認められる結果、左心室から左心房へと血液が逆流する。

そのため、左心房の大きさと圧力が高まることで

気管支圧迫や**肺水腫**を引き起こし発咳が認められる。

また逆流量が多くなったり心室の機能低下により全身への血液供給が不足すると、**うっ血性心不全**になる。



<治療方法>

内科治療では**血管拡張薬**、**強心系の薬**、**利尿薬**に分けられる。

外科治療では**変性した弁を修復したり、広がった心臓内部を縮める手術**を行う。

- ・肥大型心筋症（猫で多くみられる）

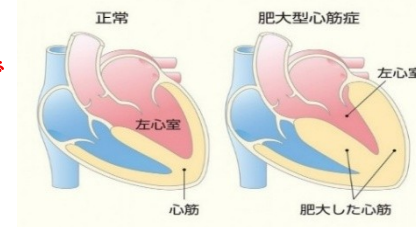
メインクーンやラグドール、アメリカンショートヘアで多くみられ、雌よりも雄になりやすい。

左心室壁と心室中隔壁が厚くなることで、

左心室が拡張できにくくなる。それにより左心房から

左心室へ血液が移動しにくくなり、左心房の大きさと圧力が高まる。

肥大型心筋症では、心臓内に血栓ができ、動脈に詰まってしまうと突然後肢が動かなくなるなどの症状で**動脈血栓塞栓症**が見られることがある。



<治療方法>

呼吸症状がある場合は**肺水腫**や**胸水**が疑われる。その場合は**酸素吸入**、**利尿薬**、**胸水抜去**を行う。**動脈血栓塞栓症**の場合は**抗血栓治療**を行い激しい痛みがあるので**鎮痛薬**を使用する。



犬や猫の心臓病には様々な種類があり、早期発見と適切な治療が大切です。

心臓病は**身体検査（聴診・血圧測定）**、**血液検査**、**レントゲン検査**、**超音波検査**、

心電図検査で診断します。定期的な健康診断を心がけて愛するペットを守りましょう。

何か異変を感じましたら、まずは動物病院へご相談下さい！

